

市民と市長のタウンミーティング要旨

日 時：令和6年5月18日（土） 15時30分～17時20分

場 所：ポラリスROOM8

テ ー マ：新総合計画及び市政全般

参加人数：10人

○参加者からの意見等

【意見】

- ・ 新総合計画の説明の中では、計画期間の人口推計は微増ということであったが、今後の市の方針として、人口を増やす考えなのか、それとも少子高齢化の中にあるので、人口減少を前提と考えているのか、教えて欲しい。

【市長】

- ・ 持続、発展という観点から人口を増やしていきたいと考えている。
- ・ 現在、県内8番目、人口が25万を超えると、茅ヶ崎市を抜き、平塚市と同程度の人口となり、横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市、横須賀市の次に人口の多い市となる。
- ・ ただ増やすのではなく、若者を呼び込み、ここで子を産み育ててもらいたい。
- ・ 若者が増えることは税収増に繋がるので財政的な視点からも欠かせない。
- ・ また、若者世代が多く定住する街になれば、昨今は働き手が不足しているので企業誘致もしやすくなる。
- ・ 隣の瀬谷区では、上瀬谷通信施設跡地の「GREEN EXPO」開催、その後、テーマパークの開業が予定されており、大和市のすぐそばで大きな動きがあるので、この好機を捉えていく。
- ・ 上瀬谷では大きな雇用も生まれるので、大和市では次世代技術を持った持続可能な企業を誘致することで、若者の定住を促進する。

【意見】

- ・ 若者を呼び込むということであれば、人口20万人を超える街なのに大学や専門学校が無いので誘致してはどうか。
- ・ 定住した若者が子を産み育てることを促すなら、子育て世代への給付金や手当など子育て支援をさらに充実することも必要である。

【市長】

- ・ 次世代技術を持った企業には、トップセールで誘致活動を行っている。
- ・ 大学については、大学施設すべてではなく、学部を絞って研究室や研修施設などを誘致していきたい。

【意見】

- ・ 認知症の方とのコミュニケーションであるユマニチュードを市立病院や市民の方々に広めることを提案する。

- ・ ユマニチュードは相手を思いやり優しさを伝えるコミュニケーションの方法で、通常のコミュニケーションでは認知症の方の心に届かないことも、ユマニチュードを用いると大きく変化する。
- ・ 認知症の方々の人権を守り、看護や介護の方々の負担の軽減、モチベーションの向上をはかれる。
- ・ 以前、大和市内でもユマニチュードに関する講演会があったが、ユマニチュードは1回では学びきれず、実践と学びを何度も繰り返しながら身に付くものである。
- ・ 個人で学ぶには費用負担も大きいので、市として講習会やその後のフォローアップを支援してもらいたい。
- ・ 福岡市は市の事業にユマニチュードを取り入れており、今年の日本ユマニチュード学会で福岡市長が講演するほど力を入れている。
- ・ 自治体の取組としてぜひ参考にして欲しい。

【市長】

- ・ ユマニチュードが自然にできるようになれることは有効だと思う。
- ・ ご意見については、福祉、病院、救急など関係する所管課に情報を提供し参考にさせていただく。

【意見】

- ・ 近所の通学路がとても危ない。
- ・ 雨の日は水溜まりもすごく困る。
- ・ 厚木基地の航空機騒音を無くして欲しい。

【市長】

- ・ 通学路については、場所を確認して対応できるように検討する。
- ・ 厚木基地の騒音を無くすことや安全確保に関しては、米軍や国に対して強く要請していく。

【意見】

- ・ 学校に関して、先生の人数が圧倒的に足りていないため、支援級に関して、一人一人に目が行き届く状況ではなく、発達障害など専門的な知識に関する講習も足りていない。
- ・ 神奈川県はインクルーシブ教育を掲げているが、世界と比較するとまだまだ遅れている。
- ・ インクルーシブ教育は、「人間の多様性の尊重等を強化し、障がい者が精神のおよび身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み」とあるが、先生が足りないことで支援級と交流級の関わりも少ない。
- ・ 理想は、様々な障がいがある子が、同じクラスで学ぶために、サポートする先生が潤沢に配置されていることである。

- ・海老名市では、インクルーシブ教育のさらなる推進に向けた取組があるようなので、大和市も前向きに推進して欲しい。
- ・障がいのある子が利用する、放課後等デイサービスも定員いっぱいの状況で、支援を受けたいけど待機している子が多くいるので、こちらもさらなる取組を進めて欲しい。
- ・学校の正門について、簡易的なロックはかけられているが、施錠されていないため、子どもが簡単に出られる状況がある。
- ・横浜市や川崎市は防犯的な観点からも簡単に出入りできないよう徹底しているので、大和市も施錠するなど対応して欲しい。

【市長】

- ・朝のあいさつ運動で市内の全小学校を周り、校長先生から現場の話を聴くと、どこも先生が足りないとのことで、教育委員会、教育長に伝えている。
- ・現状としては、定年された方にも声をかけて協力してもらっている。
- ・児童クラブが定員いっぱいの状態や、支援員の不足についても承知している。
- ・学校や児童クラブは、お子様をお預かりする場所なので、先生や支援員には有資格者やそれに準ずるものを持っている方が対象となるが、そのことが不足を解消できない理由のひとつにもなっているため、大和市独自の研修制度を設けて、地域の方にもお手伝いいただけるような形を検討していきたい。
- ・インクルーシブ教育については、海老名市（教育委員会）が県教育委員会と「フルインクルーシブ教育推進市町村」に関する協定を締結して、更なる推進に向けた連携を今年度から始めており、大和市も前向きにできることを考えていきたい。
- ・学校の出入りに関しては、防犯の観点からも対応ができないか、教育委員会に伝える。

【意見】

- ・結婚を機に20年ほど前に大和市に転入し、生活し、子育てをしている中で、以前と比較して、いろんなことが良くなってありがたく感じている。
- ・残念なのは、病児保育について、中央林間の病児保育室が9月で終了することである。
- ・行政の支援がなかったと聞くと、実際のところはどうだったのか知りたい。
- ・中学校の部活動に関連する施設や備品について、予算がないから壊れたままになっていると聞くと、どのようなタイミングで予算化や修繕がされるのかを知りたい。
- ・総合計画の説明や、市の情報を見ていると、健康、ウェルビーイング、未病などキーワードが多くあると感じている。今後、具体的にどのようなことを実施していくのかお聞きしたい。

【市長】

- ・民営の病児保育については、利用実績を基に積算した補助金を交付して運営支援を行っている。

- ・ この度の閉室は、法人が経営状況を踏まえて判断されたものと伺っており、市として、国の制度に則った枠組みの中で、最大限の支援を行っていることを、ご理解いただきたい。
- ・ 部活動への支援については、市から各中学校に補助金を出しており、その予算をどう使うかは学校が決めている。
- ・ 予算には限りがあり、優先順位を付けて対応しているので、状況によっては修繕が翌年度になっていることもあるかと思う。
- ・ 具体的な内容は後ほど聞かせていただく。
- ・ 健康に関しては、食事、睡眠、運動、人と交流することが大切で、その結果として「幸せ」を感じることができると捉えている。
- ・ そのようなことを踏まえ、居場所やイベントなど人と人が交流する場を創出していくことに取り組んでいく。

【意見】

- ・ 2025年問題について、運送業界も大きな影響を受けると予測されているが、大和市として運送業界に対して何か対応は考えているか。
- ・ 再生可能エネルギーの補助金は単年度で終了するのか、継続していくのか。

【市長】

- ・ 2025年問題については、様々な分野に影響があるため、各部署と何ができるのかを話し合っており、国の動きを見ながら、対応できることを検討していく。
- ・ 再生可能エネルギーは、持続可能な社会を目指すためにも力を入れていく。
- ・ 下水道処理施設、ごみ焼却施設を広域で維持管理している自治体が多い中で、大和市は単独で維持管理しており、維持管理経費が膨大である。
- ・ 公共施設や地域から出る剪定枝を燃料チップ、堆肥、焚き木などにリサイクルすることもできるのではないかと考えている。
- ・ 給食の残食についても、堆肥など活用できることをやっていく。
- ・ 再生可能エネルギーやリサイクルについては、啓発も含めてしっかりと対応していきたい。

【意見】

- ・ 息子が小中学校の支援級や市の関係部署の方に大変お世話になった。
- ・ 大和市には特別支援学校は無いことから、学校で受け入れて支援してくれており、専門職ではない先生方やヘルパーさんが勉強して苦勞されながら対応してくださっている。
- ・ 高校受験に関して先生方やヘルパーさんにノウハウが無く、個人情報保護の観点から、進学先の情報が共有されていない。
- ・ 障がいによって、考慮しなければならないことは様々で、息子は車椅子を使っているのに、エレベーターのある学校の情報が必要で、他にも、ヘルパー付き添い可能な学校、通信制、定時制などの情報があると助かるのだが、親

同士や知り合いなど横の繋がりで学校を探し出しているのが現状である。

- ・ 個人情報保護も大切だが、障がいのある子どもたちが、自分で進路を選べるように、先生方が横のつながりを持ち進学先の情報共有できるようになると良いと思う。
- ・ 大和市の福祉は、高齢者に偏っているように感じているので、障がいのある子どもたち、若者世代に対する部分、生き甲斐や進路など幸せに繋がる部分を意識していただきたい。

【市長】

- ・ 障がいのある子どもたちが、自分で進路を選ぶために必要な情報が得られるようにすることは大切なことだと思う。
- ・ ご意見を教育委員会だけでなく、市長部局のこども部や健康福祉部にも情報共有させていただく。
- ・ 先生方やヘルパーさんが苦勞している状況は、先ほどもお話しした先生方の負担を減らすことができるよう、学校現場に地域の方が入って支援できるような仕組みを作っていければと考えている。

【意見】

- ・ シリウスなどの公共施設が充実していること、街並みも綺麗なので大和市が大好きである。
- ・ 今年度の予算（やまとニュースNo.133）を見ても、「子ども」「街づくり」「スポーツ・文化」など、若者を呼び込もうという戦略が見て取れて素晴らしいと思っている。
- ・ 先ほど市長から若者の定住を促進するというお話があったが、同時に賃金が高くなればと考えている。
- ・ 市内企業、市役所も含めて賃金が上がると、結婚や子を産み育てる余裕が出てくるので、大和市として何か戦略を持っているのかお聴きしたい。

【市長】

- ・ 大和市に人が集い賑わうための仕掛けをしていくためには、市内に8か所ある鉄道駅が強みであり活用していきたい。
- ・ また、大和市は「災害に強いまち」であることも強みである。
- ・ 東日本大震災、熊本地震、能登半島地震など様々な災害現場でボランティア活動をしてきて「災害に強いまち」というのは本当に大きいと感じている。
- ・ 関東大震災において倒壊した建物が約600戸のうち十数件と非常に少なく、厚木基地や鉄道3路線の立地も、この地盤の強さが大きい。
- ・ このような、大和市の強みを活かしたシティセールスに力を入れ、企業誘致や人と人がつながるような施策を展開し稼げるまちにしていきたい。
- ・ 半導体など次世代技術を持った企業を誘致し、雇用を創出して若者を呼び込んでいきたい。
- ・ 稼ぐのは「攻め」で駅前を中心に、大和市はベッドタウンなので住宅街は安心で静かで暮らしやすい「守り」の街づくりをしていく。

- ・ 街づくりに関しては、市民の皆さんの声をお聴きしながら、外部コンサルティングによる視点も取り入れていく。
- ・ 上瀬谷通信施設跡地の「GREEN EXPO」開催、その後のテーマパークの開業が予定されているので、この機会も逃さずに街づくりを進めていく。

【意見】

- ・ 振り込め詐欺防止対策の補助金を活用して電話機を購入した。
- ・ 実際に使ってみて、非常に効果的だと感じており、将来的に市内の固定電話が100%振り込め詐欺防止対策電話機になることは可能か。
- ・ 子どもは特に医食同源で、日頃からバランスの取れた食事をとることが大切であり、そのために給食はとても重要である。
- ・ やまとニュースNo.133に「学校給食の食材費を補助」とあるが、将来的に給食費をどの程度まで補助する考えか。

【市長】

- ・ 振り込め詐欺防止対策の電話機購入補助金は継続してやっていく。
- ・ 給食費の無償化については、現時点では財政的に難しいため、やまとニュースNo.133でお知らせしたように、物価高騰で値上がりしている食材費の一部を補助することで給食費が上がらないようにしている。
- ・ 子どもたちは給食を楽しみにしてくれているので、無償化については、国や県からの補助を得られるよう働きかけていく。
- ・ 将来的な話では、北部・中部・南部にある給食調理場を集約することでスリム化して、給食費を抑え、献立を充実させていきたい。

【意見】

- ・ 地域包括支援センターでは、手摺の設置や段差の解消などの助言はできても、住宅の構造も含めた環境整備に関する助言はできないので、建築、介護、医療、理学療法など様々な観点から総合的な住環境について相談できる窓口を各包括に設置することを提案する。
- ・ 要介護になってから住環境を整えるのは容易ではなく、元気なうちに終活を視野に入れた住環境を見直すと、生活を管理しやすくなりQOLも向上する。
- ・ 実体験として、介護ベッドを入れようとしても部屋に入れられず、そこから部屋を整えるのは大きな負担であり、介護ベッドの搬入を想定した環境整備ができていることが望ましい。
- ・ 福祉住宅相談窓口が機能するようになれば、福祉住環境コーディネーター（1999年（平成11年）に認定が開始された国家資格）など新たな雇用も生まれるのではないかと考える。
- ・ 大きな話になるが、終活が出来ていない住宅は、お亡くなりになった後、片付けができず放置されることも多く、空き家問題の解消や、介護保険料の削減にもつながると考えている。

【市長】

- ・ 急に介護ベッドを搬入することになって片付けることが大変なのは私も経験しており、私は一緒に住んでいたから対応できたが、ご家族が遠方に住んでいる場合や、お一人暮らしの場合の大変さは想像に難くない。
- ・ 市では、終活相談窓口など、終活を支援するため、さまざまな取組を実施しており、ご提案については関係のある部署と情報共有させていただく。